

校歌に対するなつかしみの認知構造と曲想イメージ形成のモデル化 —「校歌らしさ」のプロトタイプの存在性に関する実験的検証—

A Cognitive Structure Model Explaining How Music Image Formation about School Songs Evokes Nostalgia

—Experimental verification on the existence of the prototype for “school song likeness”—

宮原 佐智子 (Sachiko Miyahara) 指導：松居 辰則

1. 背景と目的

多くの日本人は校歌にふれると過去の記憶を想起し、なつかしさを感じる。その内容は学生時代の思い出に特化した性質である。また、他校の校歌であってもなつかしさを感じる現象がある。Rosh & Mervis (1975) [1] は、プロトタイプ理論では、カテゴリーは最も典型的な事例であるプロトタイプの存在と類似性で構造化されたものであると述べている [1]。本研究では校歌の特徴の抽出や印象評価を行い、校歌の曲想イメージ形成とプロトタイプの存在性を検証した上で、校歌に対するなつかしみの認知構造のモデル化を行うことを目的とする。

2. 研究1 (歌詞に着目した研究)

テキストマイニングにより校歌の歌詞に含まれる頻出語を抽出したところ、「我ら」、「母校」「学び舎」「輝く」などのポジティブな頻出語が確認できた。代表性の高い語を組み合わせ「平均校歌」を作成し、実在の校歌と比較したところ「平均校歌」が最も校歌らしいという評価を得た。

3. 研究2 (音韻的な要素に着目した研究)

Hevner (1936) [2], 谷口 (1995) [3], 金礪ら (2016) [4]の研究で使用された印象語に曲想標語を加えた103語を用いて「クラシック」「校歌」「J-POP」「唱歌・童謡」「演歌」の印象実験を実施したところ、ジャンルごとに特徴的な結果を得た。ここから、校歌の評価に使用する34語を選出した。さらに、小学校の校歌30曲と、校歌の特徴(長調, 4/4拍子, 16小節, J=112)を反映させた「mysong1」, 調号を短調にした「mysong2」を作曲し音源を作成した。音源を再生後, 評価語34語と「校歌らしさ」「既知感」に対する印象強度について5件法で評価を求めたところ, 音源を用いない印象と類似した結果を得た。

4. 研究3 (校歌らしさについてのクロス分析)

研究1, 研究2で得た知見に基づき「校歌らしい」「校歌らしくない」歌詞を作成し, 研究2で作成した2曲と組み合わせ「A校歌らしい歌詞と曲」「B校歌らしくない歌詞と校歌らしい曲」「C校歌らしい歌詞と校歌らしくない曲」「D校歌らしくない歌詞と曲」とした。印象について評価を求めたところ, B, Cは違和感を抱くとの結果を得た。

5. 結果と考察

研究1, 2とも校歌に頻出している歌詞, 曲が最も校歌らしさを感じるとの結果を得た。音源を用いた実験では, 因子分析により「躍動」「荘重」「廉潔」の3因子が確認でき,

これらが校歌の構成概念であることが推測できる。また, 音源の使用に関わらず, 多くの被験者がなつかしさを感じていることが確認できた。研究3では, 歌詞や曲がもつ構成要素の共通性が曲想イメージとなっていることが示唆された。これらを基準として校歌を評価していることが考えられる。すなわち, 校歌らしいか否かは校歌に相応しいことを期待するトップダウン処理がなされていることが示唆された。図にまとめると以下になる。

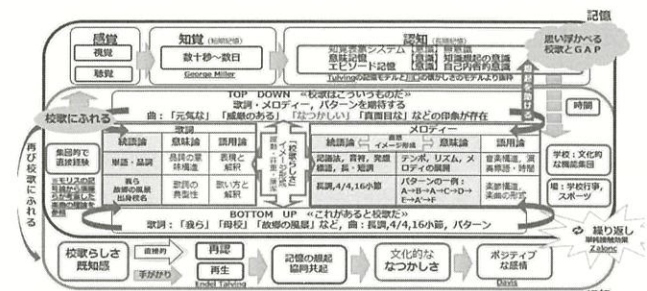


図. 校歌に対する認知構造と曲想イメージのモデル

6. まとめと今後の展望

実験結果より, 校歌の構成要素にあるプロトタイプの存在性が校歌に対するイメージ形成を行いトップダウン処理で校歌らしさを期待する。これらが, エピソード記憶と繋がりやすく, なつかしさを感じていることが示唆された。

校歌以外であっても刺激となるものがあれば, 記憶の想起を手伝い気分を変える可能性があると考えられる。

参考文献

- [1] Rosh, E., & Mervis, C. B.: Family resemblances: Studies in the internal structure of categories, *Cognitive Psychology* 7, pp.573-605, (1975)
- [2] Kate Hevner, University of Minnesota: "EXPERIMENTAL STUDIES OF THE ELEMENTS OF EXPRESSION IN MUSIC", *The American Journal of Psychology*, Vol.48, No. 2, pp. 246-268, (Apr.,1936)
- [3] 谷口高士; "音楽作品の感情価測定尺度の作成および多面的感情状態尺度との関連の検討", *心理学研究*, Vol. 65, No. 6, pp.463-470 (2010)
- [4] 金礪愛, 中野倫靖, 後藤真孝, 菊池英明; "歌声の印象評価尺度の構築に基づく多様な印象の自動推定手法", *情報処理学会論文誌*, Vol.57, No.5, pp.1375-1388 (2016)